

VI 安全管理

1. 放射線管理

放射線障害予防規程に規定する放射線管理区域の放射線管理業務を行ったほか、研究センターの施設増築、ビームライン増設に伴い、放射線発生装置使用許可の変更等の手続きを行った。

1-1 「放射線発生装置使用許可」状況

(1)研究センター施設増設等に伴う変更許可申請

変更許可申請を2008年4月3日付けで行った。
主な申請内容は次のとおり。

①施設建屋増築に伴う放射線管理区域(実験ホール)の拡張及びニコンビームラインBL18の建設

②県有ビームラインBL10,11 建設及び放射線使用室としてBL10 光学ハッチ建設
許可年月日は2008年5月20日付け。

なお、2008年8月1日に一部(①)について施設検査を受検し、8月4日に合格通知を受領した。

また、2009年1月26日に残り(②)について施設検査を受検し、1月27日に合格通知を受領した。

(2)九州大学ビームラインBL6の建設等に伴う変更許可申請

変更許可申請を2008年10月2日付けで行った。
主な申請内容は次のとおり。

①BL6の建設

②県有ビームラインBL9Aの放射線使用室(光学ハッチ)の移設

③蓄積リングへの電子ビーム観測ポートの設置に伴う遮へい構造の変更

許可年月日は2008年12月15日付け。

なお、2009年1月26日に一部(②③)について施設検査を受検し、1月27日に合格通知を受領した。

また、2009年4月24日に残り(②)について施設検査を受検予定である。

1-2 放射線モニタリング等

加速器、蓄積リング及び4本のビームラインについて、年2回の定期測定とモニタリングポスト等による定常監視を実施し、法令の基準内にあることを確認している。

定期測定時において、実験ホール内のシンクロトロン光ユーザーが常時立ち入り可能な場所では2.5 μ Sv/hr未満であった。遮へい壁直近の1箇所、入射時において、10.2 μ Sv/hr程度が検出された。

これらの値は法定限度1mSv/w(作業時間30hr/w)を十分に下回っている。

1-3 教育訓練実施状況

放射線業務従事者の登録に必要な教育訓練を次のとおり実施した。

①実施日：2008年4月15日

講師：伴 秀一

(大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 放射線科学センター長) 他

受講者：29名

②実施日：2008年8月26,27日

受講者：1名

③実施日：2008年10月20日

受講者：34名

1-4 放射線業務従事者管理及び入退室管理

研究センターで放射線業務従事者として登録し、フィルムバッジにより個人被ばく管理を行った者の数は次のとおりであった。

表1 放射線業務従事者登録数

| | 登録者数 |
|---------|------|
| センター職員等 | 26人 |
| 外来者 | 408人 |

個人被ばく線量計の最少検出限界は、X線、ガンマ線に対して0.1mSv/月である

2. 化学薬品の安全管理

研究センター化学薬品管理規程に基づき、高圧ガス等を含む化学薬品等を研究センター内に持ち込む際の安全審査を行った。

また、ビームライン利用者により利用課題に伴い利用期間中のみ持ち込まれる実験試料等についての安全審査も行った。